

# 研究結果報告書

中国の対外行動に対する日本・韓国の外交・安保認識比較研究：  
両国エリートたちの地政学的想像力を中心に

所属：高麗大学校 グローバル日本研究院

役職：院長

氏名：徐承元

## 研究結果

最近韓国と日本の対中政策は非常に違うとの議論が少なくない。最も典型的な例が韓国の中国傾斜論、そして日本の対中牽制論である。しかし、これらは体系的な分析や帰納的推論というよりは、表面的観察あるいは政治的レッテル貼りのように思える。本研究は、2013年初めから2019年秋までの朴謹恵・文正仁政府および安倍晋三内閣の対中政策を取り上げ、その相違点と共通点を導き出すとともに、上記の議論を検証する。

研究では韓日両国の対中政策を①脅威認識、②一次的な安保上の憂慮、③米中競争への対応、④経済と安保の関係、⑤歴史問題に関わるアイデンティティ政治、⑥国内政治と政治リーダーシップの地政学ビジョンの関係という六つのトピックに焦点を合わせて分析した。分析の結果、韓国側は保守・進歩政権いずれも強大国政治や地政学ゲームに対する根強い反感を反映し、特に、南北関係改善を主なる動力とし韓半島の地政学的緊張と競争構図を変化させようとする中で、脱地政学ゲームを行うおうとすることが分かった。安倍内閣の対中政策は、初めは伝統的な地政学ゲームに力点が置かれたものの、2017～2018年以降は排他的親米姿勢から脱し、中国と親密な関係を築こうとする様子が見られた。

韓日両国の対中政策は決して少なくない相違点を見せながらも、有意義な類似点も発見された。対中脅威認識が類似したものになつていくこと、特定の争点への還元主義的傾向、韓米中および日米中関係への重視、政策オプションの多様な組み合わせ、国内政治との緊密な関連性などがそれである。総じて、両国の対中政策は韓半島和平プロセスの構築や経済協力などに重点を置く、ミドル・パワー戦略に収斂する傾向が見られた。近い将来、共通の対中戦略の可能性を示唆するものである。

## 研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

- ・徐承元「地政学の観点からみた安倍日本の対外戦略と日中関係、そして韓日関係」第四回亜州大学日本政策研究センター学術大会、2018年11月7日、亜州大学
- ・徐承元「韓日関係と中国要因」2019年21世紀政治学会春季学術会議、2019年5月24日、釜慶大学
- ・徐承元・金男恩「韓日両国の対中国戦略を比較する：地政学か、それとも地経学か」Comparing Japanese Studies in Korea and Germany, Tübingen University, Germany, January 17, 2020

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- ・Seung-won Suh and Nam-eun Kim, "Facing China Differently and Equally: A Comparative Study of South Korean and Japanese Policy Behaviors"(投稿済み)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)